

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム こせん 1F		
所在地	熊本県熊本市中央区壺川2丁目3番70号		
自己評価作成日	平成24年9月7日	評価結果市町村受理日	平成24年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中高校の教育環境があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設当初より様々な場面で、地域の方や他事業所からもお声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近付ける支援体制となっている。開設からまだ間もない期間ではあるが、沢山の方々に支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員になるべく一歩一歩歩んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームこせん”は尊厳と温もりのある高齢者介護を実践する法人の、二つ目のグループホームとして昨年開設している。法人で経験を積んだ管理者のリーダーシップのもと、一階・二階の両ユニットはそれぞれが一つの家としながらも、職員は志を一つに双方が助け合いお隣同士の関係を大切に同居者の穏やかな時間を支援している。開設時から日頃より地域行事や防災についての助言・情報を頂く運営推進会議メンバーの心強い支えにより、ホームに出来る事を日々模索しながら邁進している。町中にありながらも熊本の歴史や風情を感じる事が出来る環境の中、今後も同居者が穏やかな日々を過ごせるよう、又、家族・地域から信頼のあついで確立していく事が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内にあるGHの理念を受け継ぎ開設に至っている。スタッフも理念を元に、入所者の方々が落ち着いて生活して頂ける様実践へ繋げている。	地域の中に根付いていく事を盛り込んだ、同法人のグループホーム理念を当ホームも掲げ、事業所内に掲示している。職員は理念に沿ったケアが実践できているか日々振り返りながら、入居者の穏やかな日常生活を支援している。管理者は職員採用時にも理念を伝える他、運営推進会議の中でも説明を行い啓発に繋げている。	管理者は開所から今日までホームの体制や基盤作りに努めた日々であったと語っている。今後は職員の身近なケアの規範となるような、ホーム独自のサブ理念を全職員で検討する事で更に思いを共有し、日々のケアに当たる事ができると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日頃の散歩や地域の祭り、イベントや地域行事への参加を通して地域の方と交流を持ち、地域の一員となれるよう努めている。	天候の良い日は近隣の散歩を行い人々と挨拶を交わしながら交流に努めている。地域の祭りに参加した際は、ホームのブースが設けられている等、地域の中に浸透してきている事が窺える。今後も運営推進会議などを活用しながら、地域の一員となれるよう努めていきたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にGHの役割や認知症について知って頂く為に、まずは、運営推進会議に参加頂いている区役の方々にお分かり頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を参考に開催し地域の区役の方々、包括、利用者、家族に参加頂き情報交換を行っている。水害・天災に於いては住み慣れた地域の方々より避難情報等を頂き今後に向けている。	地域代表者・家族・入居者・包括職員等をメンバーとして、二ヶ月に一度、建物内にある居宅支援事業所を会場にして開催されている。ホームの現況報告に続き、毎回参加者の立場から意見や提案が出されている。昨年の震災や今夏の水害など自然災害発生から、避難場所等入居者の安全対策についても話し合われている。	会議録からも毎回有意義な会が開催されている事が確認される。現在は参加されなかった家族へは口頭で報告される事が多いようであるが、全家族の理解や共有に繋げるために開示方法の検討に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括より参加頂き、取り組みの報告を行っている。又、行事時には参加のお声掛けを頂いている。	市の担当者とは相談や質問など状況に応じ連絡を取っている。定期的な運営推進会議には地域包括より参加を得、ホームの現況を確認してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体が拘束をしない取り組みを行っており、「オムツも抑制である」との考えを元に拘束をしない実践へ取り組んでいる。	法人が重要な取り組みとして掲げる利用者尊重、拘束のないケアについて、理事長による話や定期的な会議、研修会で共有し拘束のないケアの実践に努めている。研修会では実際拘束の場面を作り体験する等、利用者の気持ちになり拘束のもたらす弊害をそれぞれが感じ取る機会とした。管理者は何気ないスピーチロックについても指導を行い、入居者の不穏時はできるだけ寄り添い、関わる時間を大切にケアに当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やホーム会議の中で利用者お一人お一人の事を話し合い変化を見過ごさないよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料準備はしており相談があった際は、情報提供や各関係機関との連携を図れるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所や契約変更時には、ご理解頂ける迄個々に十分に説明を行っており、不明な点が出られたら随時対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全御家族と十分にお話が出来ているとは言えないが、家族会や面会などでお会いできた際に必ずお話をしよう心掛けている。ご家族や入所の方々の思いはスタッフと共有し次回へと繋げるよう努力している。	入居者の意見や要望は日常の会話から確認し、家族からは来訪時に近況や看護職員より体調を報告する中で尋ねている。又、家族が訪れやすい雰囲気作りに努め、公的な相談窓口についても入居時に説明を行なっている。一緒に行事に参加し楽しみたいという要望を受け、敬老会やクリスマス会等、家族も参加できる季節の行事が企画された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や暮礼又は個別に話を聞き対応している。ホーム内で完結できない事は法人の協力を得て、働きやすい環境作りに向け取り組んでいる。	代表者との面談をはじめ、管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを取りながら、体調や希望に配慮した勤務体制など法人と連携を図りながら働きやすい環境整備に努めている。ホームの行事や職員の急な病欠時では、入居者の安全や職員にも負担にならないように法人より人的協力体制が取られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や諸事情での勤務交替等スタッフ間で話し合いながら勤務し、又、代表者も職場環境、条件整備に尽力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を開催し学びの一つとしている。又、資格取得の相談の際は、情報を提供し学びの機会を伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会へ今年度加入でき会への参加を通じ情報交換や伝達に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際本人がどのような生活を望まれているのかを知り家族や関係者と協力を得ながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に本人、家族と共に見学や体験や面談の機会を設け、不安事を含め話を傾聴し、少しでも安心された中でのサービス利用を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前訪問にて本人・家族と面談を行い、その時の状況や状態を見極め、関係者と相談連絡しながら対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで経験してこられた事を伺い、豆知識や歌やおふくろの味等を教えて頂き、日々の生活を共にする事で楽しみも悲しみも一緒に分かり合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期の面接段階からご家族の協力を依頼し、行事などへの参加をお願いしている。又、面会時にはご家族の話も傾聴し抱えておられる悩み等軽減できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用されていたサービスからの訪問や、昔の写真を見ながらの談笑も大切にしている。又、電話や外出などのサポートも行う馴染みの関係継続に努めている。	家族の協力を得ながら馴染みの床屋を利用したり、趣味や特技・楽しみ事(絵画・縫物・ピアノ演奏・花の水やり等)を継続して支援している。又、家族や知人の来訪時はゆっくりとした時間を過ごせるよう配慮している。	今後も一人ひとりの馴染みの人や場所、大切にしてきた事等、家族からの情報も大切にしながら、職員の気付きやアイデアによりホームに出来る支援が継続される事に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレク等の交流場所での席位置や個々のレベルに合わせた軽作業等の配慮をし利用者同士の関わり合いを支援できるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等された場合には情報提供を行い病院へ訪問をし入院中の状態も共有できる様努めている。又、退所となられたご家族との頼りのやり取りも大切にしており、感謝の言葉など頂きスタッフの励みになっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの暮らし方の希望を伺ったり、これまで生活してこられた思いを傾聴しその方の思いを読み取れる様に努力している。意思表示が困難な方は表情・行動を観察し、ご家族にも話を伺い把握に努めている。	日々の関わりの中で思いや意向を確認し、職員間で情報を共有し思いに沿った支援に繋げている。又、家族からの情報も大切に、意思表示が困難な方へは表情やしぐさ等から推察し本人本位に検討している。日々の申し送りノートからは職員の気付きが職員それぞれの表現方法で記され、共有されている事が確認された。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の流れや軽作業等ご家族も交え情報収集し、したい事、したくない事、得意不得意を見極め把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕に申し送りと引継ぎを行い、個別記録とは別に情報交換ノートを利用し全スタッフが情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わり合いの中で望まれている事は何かを読み取り、ご家族の面会時にもお話を聞く事で本人や家族にしか分からない、その方らしい介護計画作成に努めている。	管理者による入居前の自宅訪問や初期の聞き取り等をはじめ、本人・家族の思いや希望を確認する機会を大切にしている。職員の気付きや意見を反映したプラン作成に努め、家族に説明を行なっている。現状に即した介護計画にする為、入居者に変化があった場合はその都度報告し、検討を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の表情や仕草等小さな変化も見逃さない様に情報共有を行い、こまめな記録を行いアセスメントを行う事でよりよいケアが出来るよう努めている。又、勉強会や会議を行いケアの知識も深められるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望要望には話し合いを十分に行なった上で、可能な限りお受け入れを心掛けています。特にご夫婦のどちらかのご入所中はそのお相手の状況も把握し可能な限り考慮に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている祭りや行事への参加。スタッフもボランティア参加し、地域と一体となって活動に心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から情報提供を行い他医療機関や家族との連携を図りながら、必要な医療がスムーズに受けられるよう支援している。	入居時の説明で個々のかかりつけ医を確認しているが、協力医への移行を希望される方がほとんどであり、現在は全入居者が協力医による週一回の往診を受けている。専門医については引き続き入居前からの馴染みの医師による受診を支援し、基本的に家族が同行している。入居者の様子から気になる点や注意すべき点を記録し朝、夕の申し送りで継続して観察するよう統一している。協力医との24時間医療連携体制により緊急時や夜間帯対応が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯に看護職員を配置している。協力医療機関に24時間の連絡体制をとって頂いており、急変時には対応頂き健康管理・維持の協力を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を行い、本人の混乱を最小限にできるよう支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの事前確認を行い段階に応じて話し合いをしながら終末期に向けていく意向は法人の取り組みを受け継ぎ今後の課題といえる。	入居時に終末期の迎え方について家族へアンケートをとり事前確認を行っている。デリケートな問題である事から家族の気持ちに配慮しながら現時点での考えや、今後の体調変化に伴う対応方法などについて意向を確認している。ホームの方針として看取りまでを支援するとして管理者は今後、研修会の必要性を感じている。	現在、支援の対象となる方は居られないが、重度化や終末期対応の勉強会開催により職員の意識の向上を図り、体制作りの第一歩として頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を実施し技術や知識の習得に取り組んでいる。1F2Fの勤務スタッフは協力して緊急体制を整えている。又事故報告書を通じ問題を検討し再発防止を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網にて勤務外のスタッフにも連絡が取れる体制を整え、勉強会等で避難方法など確認に努めている。	年二回火災を想定した総合訓練を実施しており、その中で、消防署より出火場所に応じた避難経路を設定する事などの指導を得ている。自然災害では市内を襲ったこの夏の大水害を踏まえ、推進会議の中でも地元代表者から水害や大規模火災、地震時の避難場所や過去の状況、地元消防団への協力依頼などの情報が齎されている。又、備蓄については常時一週間の生活が可能な体制を作っている。日々のチェックリストは設けていないが、建物内外の安全点検を管理者が行っている。	消防団への協力依頼を検討している所であり実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当ホームは法人からの取り組みである「オムツ外し」を実践しており、要介護度に関係なく人として排泄はトイレで行うという当たり前の権利を尊重した介護を行っている。トイレへの声掛けへも配慮に努めている。	個々の尊厳をオムツ外しを通し実践している。介護度に関わらず、すべての入居者にトイレへの声かけ、誘導を行いながら入居者の羞恥心や自尊心への配慮に努め、限られた室内での生活であることから声のトーンや言葉の選択についても心がけている。職員は法人講師による研修会でも共通した認識を持ち、入居者への対応を統一している。守秘義務について入職時に誓約書を交わし、個人情報に関わる事について家族の同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が望まれる事を、利用者自身で選択できるように話をしっかり傾聴し場面設定に努めている。自己表現が出来られない方は、スタッフがサインを見逃さないよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールや日課は特別に設定せず、その日その時に臨機応変に対応している。パン食を好まれる方や元々夜型生活の方には、本人のその日のペースに応じ支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には本人の意向を取り入れ個性の尊重に努めている。更衣不十分の際は自室へ付き添い一緒に選び支援行う。又、散髪も定期的に訪問理容を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に食べ物の好き嫌いを伺い把握に努めている。又、毎日の挨拶の中でお昼の献立決めにて意向を伺い、調理はスタッフと複数のグループに分かれ個々の能力を生かした役割分担にて行う。配膳や片付けも同様に行なっている。	入居時に嗜好調査とアレルギーを把握し、個々の好みを献立に反映している。その日のメニューは冷蔵庫の中身と相談しながら、リビングで入居者と共に決定し、役割分担をしながら、入居者が食に関わる時間を大切にしていく。食材は週一回、市場からの配達としているが、一階に届いた季節の食材を入居者も目や手に触れ、二階に分配する事も楽しみとされている。職員も同じテーブルを囲み出来上がった料理と一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を確認し、栄養や水分不足の方には栄養補助食品や嗜好品の活用をしている。夜間も必要に応じ水分補給に心掛け脱水予防に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各自室で歯磨きを行なって頂き、ご自分で出来る方はさり気なく見守り、支援を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導ノートを利用しながら、本人のサインを把握し声掛け・誘導を行い、オムツ外しに取り組んでいる。現在百歳の方も布パンツでお過ごしになられている。	ほとんどの入居者が布下着を中心に軽量の排泄用品との組み合わせにより過ごしている。チェックシートを活用して個々の時間を把握し、仕草や表情からも推察しながら、声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援している。夜間帯のポータブル使用後は洗浄や日光消毒により衛生的に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前の水分補給時に冷たい牛乳(黄粉入り)を提供。又、食物繊維の多い食品を提供できるよう心掛けている。状態に応じては緩下剤の服薬も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	法人の取り組みにて当ホームでも夜間入浴を実施しているが、本人の希望やタイミングによっては昼間の入浴も施行している。	法人が薦める夜間入浴により、家庭生活の延長として夕方から夜間帯にかけ入浴することで、一日の疲れをとり気持ちのいい入眠に繋げている。週三回の入浴日を設定して温度や湯量にも配慮し、菖蒲や柚子湯などの季節風呂も支援している。同姓介助を心がけたり、仲のいい方同士で入ったり入浴が楽しいものとなるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入浴からの睡眠導入へと繋げている。日中は生活暦やその日の状態を見ながら休息へと繋げ実践している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳やお薬の説明書を見ながら、誰が何の薬を服用されているか確認把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ピアノを弾きながら歌を歌われたり、絵を描かれたり囲碁をされたりと、お一人お一人趣味事があられ、場面場面で取り入れられるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は「何処か出掛けたいわ！」の声があれば近隣へのお散歩を心掛けている。又、桜の時期には窓から見える「あの桜の木の下に行きたい」とのご要望で寺原自動車学校の協力を頂き、お花見を行った。地域の方からもお誘いを頂き現地でも協力頂いている。	日常的には窓から望む自動車学校の風景を楽しんだり、同学校でのバザーへの参加、近くの川べりを散歩するなどホーム周りの資源を活用している。又、法人の車を借りてお城の花見見学や家族の協力による外出や外食も設けられている。地域行事であるお月見会や運動会への誘いも受けており、近隣の人々との交流の場でもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事を希望される方には、本人とご家族と相談の上安心される金額(高額にならないよう)をお持ち頂いているが、残念ながら現在の所お金を使う支援までは至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の面会が多く直接話ができる機会が多々ある。又、遠方にお住まいのご家族には定期的に連絡をし本人との会話が出来るよう支援している。家族より小包が届いた際はお礼状を書かれやり取りされる支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には絵画や書道など四季折々の作品を展示し見て楽しんで頂いている。	二階建てのホームにそれぞれの玄関が設けられ、内階段やエレベーターで繋がっている。中心のリビングには入居者の書の力作やテーブルには季節の草花を飾り、落ち着いた空間で入居者は食後も部屋に帰ることなくゆっくりと過ごされている。一階庭には野菜作りもスタートしており入居者が成長を楽しみにされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に数ヶ所ソファを設置する事で、窓際で日光浴をされたり裁縫や新聞を読まれたりと自分の時間を楽しんで頂けるよう努めている。又和室での休息も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の段階で本人が使用されておられた品々や大切にされていた物等持ち込んで頂ける様お話を重ね、実際のお部屋作りの際には本人と一緒に、過ごしやすいよう配置を細かく話し合っている。	入居時に使い慣れた品の持込を家族に説明している。それぞれの居室に入居者の馴染みの品が配置され、出来る方は職員と一緒に部屋の掃除も手伝われている。高齢になられた家族もおられるが、季節の変わり目に衣装ケースや風呂敷に衣類をつめ持参される姿を見ることが出来た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉が同じ作りの為迷われないようトイレや自室を表示している。また、出来る方が、出来ずに迷われたり、出来られない方のお世話をされるといった相互の互助関係の中で、本人様らしい生活が出来るよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム こせん 2F		
所在地	熊本県熊本市中央区壺川2丁目3番70号		
自己評価作成日	平成24年9月7日	評価結果市町村受理日	平成24年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中高校の教育環境があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設当初より様々な場面で、地域の方や他事業所からもお声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近付ける支援体制となっている。開設からまだ間もない期間ではあるが、沢山の方々から支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については事務所前に掲示し職員全員がその内容を常に意識して実践に繋がる様努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域役員の方から回覧板を回して頂き、地域行事の情報を得ており、なるべく地域行事には利用者も参加する様支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時々地域の方の来所があり、その都度施設案内や相談には応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ開催回数も少なく意見がようやく出始めている段階である。防災についての意見等参考になる内容でありこれから実践に結び付けている所である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括より参加頂き、取り組みの報告や地域行事参加等に声掛けを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針でもある利用者の立場に立ったケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修で得た虐待防止関連については勉強会やホーム会議を通し、個々の入所者に置き替え常に虐待が見過ごされないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ勉強会のテーマとしてはあがっておらず実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時管理者が説明を行い、不安解消に十分努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際利用者の代弁者として家族から要望を聞く様意識して対応している。又、家族会に於いても意見聴取の機会を設け改善に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会開催時には法人代表や本部からゼネラルマネージャーにも参加して頂き意見を聞いて貰っている。しかし定例化するまでには至っていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や諸事情での勤務交替等スタッフ間で話し合いながら勤務している。代表者も職場環境・条件整備に尽力頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の開催にて学びの一つとしている。資格取得の相談の際は情報提供をし学びの機会を伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者についてはGH連絡協議会に加入の会合に定期的に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面接等、本人様がどのような生活を望んでいるのかを雑談を交えながら知り家族や関係者と協力しながら信頼関係を作るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に本人様家族関係者と共に見学や体験の機会を設けている。又、本人同席では表現しにくい内容については別に時間を設け受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前訪問にて本人・家族と面談を行いその時の状況や状態を見極め、関係者と相談連絡しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての経験を聞き生活の知恵や習わし等教えて頂きながら足りない部分を補い合い喜怒哀楽を共に感じる事が出来るような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とスタッフとのコミュニケーションを図り常に情報共有し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人の状況に応じて面会や電話や外出、外泊などの支援を行い、本人様の心の安定が図れるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝の挨拶の中で全員の共通の話題を提供している。又、レク等は利用者全員の顔が見えるよう配置し楽しめるよう実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に関しては安心して療養できるよう相談を受け、その上で紹介の支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で本人の考えや希望している事を知り、生活場面での自己選択・決定が行えるよう努めている。又、意思表示が困難な方については表情・仕草が読み取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートを中心に情報収集し入所後は日々の会話の中で以前の生活を知り御家族とも情報交換をしながらより詳細な把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の中で得意不得意を知りその方に合わせた自立援助を行うように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様家族参加のケアカンファレンスを通して意見や情報収集を行っている。又、他のスタッフ関係者からの情報も収集しその方に適した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に目を通し変化や声掛けによる反応なども記載しスタッフ間の会話による情報交換を密にし現状把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望や要望には話し合いを十分に行なった上で、可能な限りお受け入れするよう心掛けている。特にご夫婦どちらかの入所中はそのお相手の状況も把握し可能な限り考慮に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事(夏祭り)や消防署の指導による火災避難訓練の実施等積極的に参加し安全で心豊かに生活できるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの1回/週の往診時に利用者お一人お一人の全身状態の管理又、状態悪化や変化時などは管理者ご家族様と情報を共有し適切な医療を受けられる様に支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者お一人お一人の状態を把握し異変、急変時には主治医への受診をお願いし適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は詳細な生活状況や対応方法等の情報を伝える。又、ご家族の不安の軽減に配慮し、主治医に指導助言等して頂き早期に退院ができる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人ご家族様のご希望を聞き事業所でできる事を十分に説明しスタッフ全員でご本人様が安心安楽な生活が送れるように医療機関とも連携を図り支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を実施し、技術や知識の習得に取り組んでいる。1F2Fの勤務スタッフは協力して緊急体制を整えている。又出来事報告書等を通じ、問題を検討し再発防止を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策についての勉強会を実施しておりスタッフ間で緊急時の連絡網の把握や対応について訓練しており緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の誇りを尊重しプライバシーの確保を徹底し利用者様の尊厳と権利を守るようにしている。常に自尊心を傷つける言葉使いや幼児語を用いないように注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が言葉では十分に意思表示が出来ない場面であっても表情、体の反応を注意深く観察して本人の希望を把握し自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々が本来持つておられるペースや望んでいるペースに合わせて暮らしの支援をしている。お一人お一人の情報収集をし家族の意思も取り入れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ髪形服装等の身だしなみやおしゃれを個別に支援している。入所者の洋服の好みの柄色なども重視している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事を味わいながら、食事が楽しいものになるよう支援している。コミュニケーションを図りながら焦らず食べられるようにし自分で食べて頂く様支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏り、又水分不足が起こらないように、食事内容やその摂取量水分量を毎日摂取している。又、体重測定を月1回実施し減少見られる方については、栄養補助食品を追加して体調維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣を知り声掛けし残存機能が維持できるよう見守りながら、不足している部分のみ援助する。又、義歯の清潔保管に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導ノートを用いてお一人お一人の排泄パターンを把握し出来るだけトイレで排泄して頂ける様に誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜を多く使用し食物繊維を多く摂取して頂ける様にと、お茶や水分補給をし自然排便を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが入浴したくないと言われる利用者には何度か時間を変えて声掛けしそれでも入浴したくないと言う利用者には無理強いをしない。又、入浴日以外にも入浴の希望があれば対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人のその日の体調に応じて休憩時間を設け、リズムに合わせた支援を行っている。又、夜間入浴を実施し気持ちよく入眠して頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で服用できる方には手渡し服用後確認を行い自分で服用できない方にはこちらから支援を行っている。又、服用後は状態観察し状態変化時は、医療機関に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人が出来る事を把握し軽作業等の個々の力を活かして頂いている。又、家庭菜園が好きだった方には小さな菜園を作り水遣り等を行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事を企画し花見やお祭りなどに出掛け、外出できる機会を作るように努力している。又、ご家族にも外出の声掛けを行っている。屋外への外出が出来ない場合は、ユニット間の移動により気分転換を図りストレス解消に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持込をされている利用者については管理や実際の使用時に支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じいつでも家族の方と連絡を取れる様にしている。又、遠方に居られる方には電話や手紙で近況を知らせたりし、本人の安心に繋げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では花を飾ったり、絵を貼ったりし生活感や季節感を取り入れている。又、利用者が落ち着かれる様に常に環境整備に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ではそれぞれが周りの人と話を出来るようにテーブルを囲み座れるようにしている。気に入られた場所にはソファを設置し落ち着かれるような場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族と相談されてテーブルや椅子を持ち込まれておられる方や、好みの家具や心落ち着く写真や絵を飾り、居心地よく過ごせる様な配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じ、トイレに張り紙を貼ったり自分の部屋が分かるように居室前に大きく名前を書いている。		